

2025.7  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

# とみ やま 富 薬

7号

第47巻  
No.432



ゲンチアナ *Gentiana lutea* L. (リンドウ科 *Gentianaceae*)

- 生薬** ゲンチアナ 夏に5年生以上の株の根茎および根を掘り上げ、水洗後天日乾燥する。または掘り上げ根を積み上げ、一定期間自然発酵させ天日乾燥する。
- 成分** セコイリドイド配糖体: gentiopicroside, swertiamarin, amarogentin、キサントン誘導体: gentisin, isogentisin gentisic acid、その他: gentiamarin, gentian, limonene, linalool, carvacrol 等。
- 効能** 苦味健胃薬として食欲増進や消化不良、胃痛、胸やけ、胃炎、下痢、吐き気に用いる。胃腸薬などの家庭薬原料に。ゲンチアナ・リキュールの原料。

生薬 ゲンチアナ

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



フランス中南部のサンフルール (Saint Flour) 近郊のカンタル山脈に広がる高原、標高は1000m前後で、起伏に富んだ草原に広大な牧場地帯が広がっています。その牧場を利用したゲンチアナの栽培が行われている現地を見に行きました。現地では栽培ではなく、あえて言えば粗放栽培と言えるかどうかの栽培形態でした。広い牧場の一角にある程度密に株が立ち上がっていて、1mを超える大きな個体から50cmほどの小さな株や全く立ち上がってもいないロゼット葉だけの株まで混在しています。翼のある小さな種子が風でばら蒔かれ、発芽し、生長したものと考えられ、株元の牧草は牛によって食べられ、除草された状態で生育を助けてくれます。花の咲いた株

を見ますと花だけが食べられ、葉や花茎は残ったままになっています。牛の食害どころか、摘花してもらって根の成長を助けてもらっているように見えます。大きくなった株から人力で掘り上げているようです。集荷地で見ましたが、根元の直径10cm以上のものもありました。恐らく20年は経っていると考えられます。面白いことに柵外のゲンチアナは食べられることなく花を咲かせていましたので、種子の散布は大丈夫なようです。

集積地ではシートの上に乾燥中の根を厚く広げてありました。石造りの倉庫風の建物の中には、麻袋のようなものに詰められた根が天井まで積み上げられていました。野外での一部乾燥と室内で徐々に乾燥しながら発酵するためと思われます。

ピレネー山脈、アルプス山脈、アペニン山脈 (イタリア半島) およびカルパチア (スロバキア、ルーマニア、ウクライナ) 山脈から小アジアのタウルス山系 (トルコ) の亜高山帯、石灰岩質の半陰地に自生する多年草です。草丈は0.5-1.2mにもなる大型の植物で、根茎の部分は短く、根は太く長く、茎は直立し枝分かれしません。根出葉は大きく、広卵形で5-7脈がはっきりと見えます。茎生葉は対生で無柄で小さい。花は播種から4-5年すると夏に茎頂と上の方の葉腋に輪状に3-5個づつ付けます。花冠が鮮やかな黄色であることから種小名 *lutea* (黄色の) 名が付けられました。花冠は5-7深裂し、がくは筒状。果実は、卵形の蒴果で8月ころに成熟して、中に翼を持った多数の種子が実ります。

薬としては古代ギリシア、ローマ時代以前から用いられてきました。プリニウス (23-79) の『博物誌』に「イリュリア国 (アドリア海東岸) の王ゲンティオス (BC180頃) がゲンチアナを発見した」とあり、ゲンチアナの名は王の名に由来しています。また「これはどこにでも生えているが、イリュリアのものが最もすぐれている。……根はしなやかで黒ずんでいて、匂いが無い。これはアルプス山麓の湿った山地に多い。根と汁が薬用になる。根の効能は温めることだが、妊娠中の人は服用してはいけぬ」と効能などを記しています。ディオスコリデス (40-90) の『薬物誌』にも「その根には、暖め、収斂する薬効があり、コシヨウ (*Piper* sp.)、コメ (*Oryza* sp.)、およびブドウ (*Vitis* sp.) 酒と混合して2ドラム (約8.7g) を服用すると毒獣に咬まれた人を救う。ゲンチアナ抽出汁1ドラム (約4.37g) は、脇腹の痛み、高い所からの転落による障害、ヘルニア、痙攣に効果がある。水とともに服用すれば肝臓や胃病の患者を救う。その根を挿入薬として用いると、妊娠中絶を引き起こす。また、ゲンチアナは *Lycium* (クコ属) のように、創傷治療薬として外用され、とくにその搾り汁は潰瘍の薬になる。また炎症を起こした眼を治療する軟膏にもなる。根の搾り汁はアヘン (ケシ *Papaver somniferum*) 液のかわりに、刺激の強い目薬類に配合される。根にはまた、白斑をきれいにする作用がある」と様々な使い方が示されています。(村上守一 記)